

黄綬褒章伝達式と 陛下拝謁の貴重な体験

(一社)東北地質調査業協会 宮城県理事
(株)テクノ長谷代表取締役社長

早坂 功



平成28年11月15日(火)に黄綬褒章(地質調査業業務精励)を受章致しました。平成26年度の国土交通大臣賞に続いて僅か2年での褒章受章は身に余る光栄であります。これもひとえに、推薦して頂きました(一社)全国地質調査業協会連合会の成田賢会長はじめとする役職員の方方、(一社)東北地質調査業協会の高橋和幸理事長はじめとする役職員、会員皆様方のご支援の賜物と心から感謝しております。この褒章は、私個人というよりは地質調査業界、地質調査業協会を代表して頂いたものと思っております。先輩諸氏のたゆまない幾多の努力が国に認めていただいている結果の現れと承知しております。東北協会では、長谷弘太郎元理事長(弊社前社長)が平成元年度に、奥山紘一元理事長が平成19年度に受章なされており、今回が平成になって3人目の受章になります。(長谷、奥山元理事長はその後、旭日雙光章を受章なされております)。



受章経過および伝達式と陛下への拝謁という貴重な体験をここに紹介することと致します。

平成27年9月に全地連の池田俊雄事務局長から褒章申請準備に入る旨の連絡を頂き、東北協会の東海林事務局長はじめ関係機関のご協力のもとに11月に必要書類を提出しましたが、翌28年になっても書類の不備や資料不足を指摘され、池田

局長のご尽力によって6月になってやっと申請が受理されました。その後8月末に内々定、10月初めに内定、10月25日に閣議決定、11月2日に報道解禁、11月3日に発令、11月15日が伝達式という運びでした。申請準備から伝達式まで実に1年余りを要しました。その間、交通違反を含め法律違反があれば受章は取り止めということでした。

10月初めの内定の連絡を頂いてから直ちに、服装の準備とホテルの手配にかかりました。伝達式と皇居での拝謁は配偶者と一緒であり、正式の服装の準備が大変でした。

私は貸衣装からモーニングを借りましたが、家内は脚が悪いため、和服は無理で洋装としました。アフタヌーンドレスと言う聞きなれない名称のドレスを新調することになり、結婚して初めての大きなプレゼントになりました。また、この大切な10月に運悪く家内ともども風邪をひいてしまい、治すのに1か月以上かかりましたが、幸い、伝達式には無事に出席する事が出来ました。

伝達式前日の11月14日(月)夕方の小雨が振る中、国土交通省、皇居に近い港区赤坂の「ANA インターコンチネンタルホテル東京」に到着し、この日は早めに床に就いたのですが、翌日の式の事をあれこれ考えているうちに寝付いたのは夜中になっていました。

伝達式当日は、朝6時に起きて7時に朝食をし、8時に礼服に着替えて9時にホテルを出発し、9時半に国土交通省に着きました。天気は前日と打って変わって晴天であり、褒章伝達日に相応しい日和となりました。

会場には、全地連の中川直業務部長が既に待っておられ、伝達式の間中ずうっとお世話して頂くとともに記念の写真を撮影

して頂きました。10時前に受付を済ませ、係の人に胸花をつけて貰い、夫婦並んで前から2列目に着席となりました。受章者の服装は男性がモーニングで、配偶者の大部分が色留袖で華やかでしたが、家内のような洋装も僅かに見受けられました。

11時に石井啓一国土交通大臣による褒章伝達式が始まりました。国土交通省所管の受章者総数は75名・8団体で、黄綬褒章は70名でした（全省庁合計では受章者792名、黄綬褒章226名）。受章者は建設業が最も多く、そのほか塗装業、左官業、造園工事業、宅地建物取引業、電気工事業、建築設計監理業、自動車運送業、造船関連業、水先業務、航空機操縦業務、港湾建設業、旅館業など多岐に及んでいますが、地質調査業は私だけで、建設コンサルタント業や測量業には今回の該当者がいなかったようです。グループ（私は建設業と同じグループ）毎に受章者の名前が呼ばれ、代表者が配偶者を伴って大臣から直接、褒章の伝達を受けました。伝達が終わると大臣の祝辞があり、12時に閉式となりました。

その後、各自に「褒章」、「褒章の記」、「紅白のまんじゅう（国土交通省祝い品）」と昼食が手渡されました。褒章は、係の人に着用の手伝いをして頂きました。その場で昼食を頂いた後、褒章を付けた姿で再度家内と一緒に写真を撮影し、暫く待つこととなりました。



午後2時に、用意されたバス4台に乗り皇居へと出発しました。2時半には皇居の東庭（正月に一般参賀する所）に着くと、そこには各省庁の受章者を乗せた多くのバスが集まっておりました（総数約30台）。3時頃に、省庁ごとに、受章者と配偶者が別々に整列し、宮殿に向かいました。皇居内では、一切の写真撮影が禁じられているため、カメラはバスに置いて行きましたので、公的な記念撮影以外の映像は無く、以下、私の記憶に頼っての話となります。

拝謁した場所は、宮中で一番広い「豊明殿」と言う宮殿でした。宮殿に入る前に急な階段を上り、回廊を経て豊明殿に着いたのが3時一寸過ぎでした。受章者、配偶者ともに人数が多く、受章者は1列7名、配偶者は1列5名で整列し、ぎゅうぎゅう

詰めの状態で立ったままで陛下の臨席を待ちました。3時半に宮内庁の人に先導されて陛下が入場なされ、1段高いところに立たれて、受章者代表によるお礼の言葉を受けられました。その後、私たち受章者と配偶者へ祝辞を賜りました。お言葉の内容はすっかり忘れましたが、テレビで見るように静かに語られていました。祝辞の後、陛下は場内をぐるうっと廻られて、受章者と配偶者との間を「おめでとう」とのお声を掛けながら御通りになりました。私は、列の一番後ろに並んでいたのですが、陛下が場内を廻ったので、その時は逆になったため一番前になり、陛下とは1～2m程度の距離で拝謁する事になりました。緊張はしましたが、陛下のあの穏やかな優しいまなざしとお言葉、そして皇室独特の雰囲気を感じることが出来ました。

拝謁した後は、豊明殿を出て記念写真撮影となりました。撮影場所は回廊を経て急な階段を下りたところであり、送迎バスごとのグループ写真となりました。受章者が前列に着座し、後ろに配偶者が立つというおなじみの構図で撮影がなされました。



撮影後バスに戻ると、陛下から銘菓「菊焼残月（菊の御紋入りのどら焼きに似た最高級品お菓子）3ヶ」と小冊子「皇室」を賜り、出発点の国土交通省に戻ったのは5時少し前でした。夫婦揃って正装し、伝達式と陛下拝謁という生まれて初めての緊張した1日を無事終える事が出来ました。

ホテルに戻り着替えをして、近く中華店で親族とささやかな食事をし、最終の新幹線で帰仙して、家に着いたのは12時を過ぎていました。翌日は、疲れがどっと出て、1日中寝ていました。

この様にして、黄綬褒章受章という大変な名誉を頂き、家内ともども陛下に拝謁するという貴重な体験をする事が出来ました。これも、協会員のほかに弊社の役職員、そして家族など大勢の人たちの応援があつてのことであり、関係者すべての人に改めて感謝申し上げます。また、報道発表後たくさんの皆様から祝電やお祝いの品々を頂きました。誌面をお借りして、ここに厚く御礼申し上げます。